EREVNA MAC9.DOC/MEN M9/.3ENDレッスン：10“M”

テーマ：現在のパーソナリティー

MAC10./M10O91/DOC

私の兄弟・姉妹達、

スピリット、火、光の子供達よ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　前に私達は八芒星について述べ、それはWidest of Heavens（最も広大なヘブン）を意味すると言いました。

Widest of Heavensは創造界における絶対存在の二つの現れ、つまり汎宇宙的ロゴスと聖霊の母親です。

将来、私達はこれらについてもっと深く探求します。しかし、今は人類、人間の現在のパーソナリティーに注意を向けましょう。

　　現在のパーソナリティーを構成しているのは何でしょうか？かつて私達は無知の中にある人間の現在のパーソナリティーは、インナーセルフの特質の本当の現われではなく、それはまたインナーセルフの本質を現していないと述べました。

この現在のパーソナリティーを無知の中に取り込むのは何でしょうか？現在のパーソナリティーを（無知の中に）取り込むことができる能力の質とは、現在のパーソナリティーに経験を積ませる能力であり、それはまさにセルフ・エピグノーシス(Self Epignosis)なのです。この質がなければ、現在のパーソナリティーは経験を通じて個別性を獲得することはできません。

それでは、現在のパーソナリティーの進化のレベルを定義するのは何でしょうか？過去に私達は気づきについて述べました。気づき(awareness)とは何でしょうか？それは思考・行動の仕方である、と言う人もいます。もしそうだとしたら、なぜなのでしょうか？

　　全ての個人の過去の経験は、永遠のパーソナリティーによって投射されて実存の世界に下降した永遠のアトムに記録されています。

永遠のアトムは永遠のパーソナリティーの部分であり、常に留まり、その上には時間の経過における異なった全てのパーソナリティーの経験全てが記録されています。

この小さな部分の上に、全ての転生の経験が記録されています。

それぞれの新しいパーソナリティーは、直前のパーソナリティーがその転生を終えたポイントからスタートし、成長が継続され、加えられます。それぞれの現在のパーソナリティーは、そのパーソナリティーに十分な経験が与えられ、体験したので、今や新たな機会が与えられるべきである、さらなる状況を創造するための新しい機会を得て新たな経験を積むべきである、と永遠のパーソナリティーが慈悲のマスター達と共に決定するまでは、（その転生において）経験をし続けます。（そう決定された時）永遠のパーソナリティーの永遠のアトムは引き下がり、その時点で、その現在のパーソナリティーは実存の諸世界で現在のパーソナリティーとして存在するのを止めます。新たな現在のパーソナリティーが物質界で顕現するために、約束されます。

\*page2

約束の段階と顕現する段階は異なります。

永遠のパーソナリティーが新たな現在のパーソナリティーの投射を“Voulete”する、つまり意志すると、“約束”が始まります。

永遠のアトムは、現在のパーソナリティーを転生させる永遠のパーソナリティーの輝き以外の何物でもなく、それは懐妊の現象によって新しい現在のパーソナリティーを投射するために創造界の諸世界へ下降する永遠のアトムです。

懐妊の瞬間からそれは“添付”、あるいは“引きつけられ”て、それは実存の諸世界に存在しますが、それはまだ顕現していません。

　　現在のパーソナリティーの顕現は誕生の瞬間に始まります。

中絶した場合、Lifeの現象の顕現は延期されます。時間・空間の諸世界における人間の理解の見地からは延期となりますが、実際、（生まれてくる）現在のパーソナリティーにとって延期というものはありません。なぜなら、パーソナリティーは（まだ）実存の世界に顕現していないので、そこには時間・空間の意味は存在しないからです。

　　さて、もし様々な理由から、この中絶をした両親からその現在のパーソナリティーが顕現することを永遠のパーソナリティーが望み、主張すると、その時はその“現在のパーソナリティー”はサイコノエティカル界でその両親のところに生まれます。

サイコノエティカル界に生まれたパーソナリティーはより速く成長し、子供は両親ではなく、不可視のヘルパー達が面倒をみます。

両親は恐らく彼ら自身も助けを必要としているのです。

サイコノエティカル界におけるこの現在のパーソナリティーの経験も永遠のアトムに記録されます。

　　各現在のパーソナリティーは、過去の全ての経験と過去の全ての転生の結果です。もし現在のパーソナリティーを４分割するなら、その４分の３は過去の全ての経験の結果の現われであり、そのレベルの気づきを示しています。

成長への機会という点では、現在のパーソナリティーの残りの４分の１があり、その一回の転生において自分の思考・行動の仕方を上昇させて途方もない変容を遂げるための驚くべき可能性が人間に提供されています。

　　ですから人間には、各転生ごとだけでなく、その時の“人生”において現在のパーソナリティーが生きる瞬間、瞬間に自分の表現、現れを変容させる驚くべき可能性を有しているのです。

人間には、その人を過去に縛り付けている全てを解き放ち、ただ前だけを見、過去の制限から自由になって行動することができるでしょうか。その時、人間は実際に自分の潜在的可能性を使用することができるのです。

　　農夫と鋤の例え話があります。畑を耕している農夫が、耕してきた線がまっすぐかどうかを見るために後ろを振り返るかわりに、ただ前だけを見てまっすぐに土をうなって耕していきます。その話は、過去を背後に置いて前だけを見て、現在を最大限に活用して思考・行動の仕方としての自分の表現を上昇させることに注意を向ける人には、大きな意味があります。

別の観点から現在のパーソナリティーを見てみましょう。５分の５のうちの５分の４が過去の経験、過去生によるものであり、同時にその部分に現在の全ての経験を記録することが可能です。残りの５分の１は魂のセルフ・エピグノーシスをその源とする神のスパークであり、それは表現としての現在のパーソナリティーを上昇させる“磁石”の役目を果たし、“罪悪感”として具現します。現在のパーソナリティーが無知から解放され、その本来の特質を現すことができるように助けるのは、まさにこのスパークなのです。現在のパーソナリティーに、何回も繰り返す無数の失敗、試練や多くの苦しみにも関らず前進する動機を与えるのはこのスパークなのです。

　　上記のことから、Lifeの現象としての現在のパーソナリティーは時間・空間の意味内での私達の経験以外の何物でもない、と結論づけることができます。

それは思考・行動の仕方としての気づきのレベルとなって現れ、またそこにはインナーセルフのスパークが含まれています。

このスパークは現在のパーソナリティーにおいて、“罪悪感”、“動機”、“磁石”として現われ、啓発に向けて私達を引き上げるために私達の行動・思考を無意識的に評価します。さもなければ、現在のパーソナリティーは（帰還への）旅においてその最初の出発点まで戻ることが不可能となるでしょう。その源へと帰還する可能性あるいは希望が全くなく、永遠に探し続けるはめに陥ってしまいます。

Page3

 過去において、私達は気づきのレベルとしての像とエレメンタルの創造について述べ、それを二つのタイプに分けました。

　　欲望的想念(desire-thought)タイプのエレメンタルは無知の中にある人間の産物であり、想念的欲望(thought-desire)タイプは自己実現の結果である正しい思考の産物です。それは大部分、ハートをベースとしている諸体をマスターし、支配できるようになることを意味します；それゆえ、無知の中にいるパーソナリティーは欲望的想念タイプのエレメンタルを作りだします。なぜなら、肉体のセンターが欲望のセンターに依存しているからです。

　それゆえ、人々はしばしば頭ではなくハートで考える、と言われるのです。

真理の探究者は徐々に、たとえ僅かの間でも他のタイプのエレメンタル、つまり想念的欲望タイプのエレメンタルを創造することを学ぶようになるでしょう。そうすることによって、たとえそれが僅かの間ではあっても、

探求者はノエティカル体のセンターを上に移すことができるようになります。ノエティカル体は再びもとの位置に戻ってしまいますが、しかしその僅かの間、探究者は想念的欲望タイプのエレメンタルを創造し、それは無意識のマインドと呼ばれる大海の表面に置かれるのです。これらのエレメンタルは現在のパーソナリティーの成長、気づきの上昇を助けます。

真理の探究者の気づきが上昇する結果として、いわゆる現在のパーソナリティーの不定形な諸体の形の整え直しが達成されます。形を整え直すプロセスにおいて、三つの体の分離が行なわれます。健康なサイキカル体のセンターはハートに留まり、健康なノエティカル体のセンターは頭のセンターに向けて上昇し、健康な肉体のセンターはヘソのところにある太陽神経叢に向けて下がります。

これら二つのタイプのエレメンタルは、パーソナリティーにおける気づきの真のレベルを示します。これらのエレメンタルは人間の創造物であり、それらはその人を進化に向けて助けるか、あるいは静止状態に留めるかのどちらかです。実際、私達は自分自身のみならず同胞である人類を助けるようなエレメンタルを必要としています。

　　現在のパーソナリティーは無知の中にいる間は最初のタイプ（＊欲望的想念）のエレメンタルを創造し、そのパーソナリティは五感を通じてそれ自身を表現しています。五感は、無知を象徴する下向きの五芒星によって示されています。五感を通じて表現される現在のパーソナリティーは、その真の本質を表現していません。

　　真理の探究者は、自分の進化を助けるようなエレメンタルを創造する必要があります。それは実際、現在のパーソナリティーが気づきの上昇を通じて五芒星が上向きになるように努力することです。そうすることによって、真理の探究者は徐々に無知から解放されるようになります。勿論、それには時間がかかり、そのパーソナリティーは多くの経験、試練、苦難を経なければならないのです。

　　先ほど述べたように、各体がハートのセンターから離れ、それぞれあるべき位置に移動することによって、そうなるのです。

　　それゆえ、サイコノエティカルな混乱、問題によって現在のパーソナリティーは肉体的苦しみを経験するのです。ほとんどの病気は肉体上の問題の結果です。なぜなら、それら三つの体が同じ一つのセンターにあるからです。それらのエレメンタルは現在のパーソナリティーにどのような影響を与えるのでしょうか？以前私達は、何であれ蒔いたものは刈り取ることになる、と述べました。これらのエレメンタルは現在のパーソナリティーを特定の状態に縛り付けますが、それらが原因で現在のパーソナリティーはその結果を被るのです。

　　どうしたら私達はその結果を避けられるでしょうか？私達がエレメンタルを創造すると、そのエレメンタルは特定の波動を帯びています。しかし、もし私達が自分自身の波動を上昇させると、私達はそれらのエレメンタルと同調しなくなります。従って、過去の創造物であるエレメンタルは私達に影響を及ぼさなくなります。探求および特定のワークを通じて、私達は自分の気づきを上昇させ、何であれ自分が過去に創造したものとのつながりをストップさせることができます。もし私達がそれに成功するなら、私達の過去の創造の結果を被ることはありません。つながりを断つことによって、それらのエレメンタルはエネルギーを失うのです。なぜなら、私達の波動からエネルギーを貰えなくなるからです。勿論、これは非常に重要なことです。なぜなら、さもなければ払った努力は何の意味もなくなり、どれほどワークを行っても帰還への道を短縮する助けにはならないからです。私達はエレメンタルの創造について深く考える必要があります…それらがどのように作られるか、それらがどのようにして存在し続けるか…について。

　　それらのエレメンタルは正しい思考をその中に含んでおらず、無知の中にいる現在のパーソナリティーに仕えます。真理の探究者は徐々に、正しい思考と論理を体現するエレメンタルを創造し始めるでしょう。それは啓発と自己実現に向かう探究者の助けになります。

　人間は経験と知識を得るために、上昇への道を進むために学びをする上で、なぜ常に苦しみ、苦悩を経なければならないのか、と問うかもしれません。苦しみとは何でしょうか？ある人にとっての苦しみは、別の人には喜びかもしれません。私達は自分で作った次元、意味の世界に住んでいます。あるパーソナリティーにとっての意味は、別のパーソナリティーにおいては全く同じ意味にはなりません。意味とは理解可能であるもので、それらはイリュージョン（幻想）であり、リアリティー（実在）ではありません。

私達は常に神、絶対、神の聖性の中に抱かれています。

EREVNA/M10/DOC/0091